

老々介護が見込まれる高齢者夫婦の不安

Concerns of older adults who are expected to care for their aging spouses

学生氏名：河口桜子 平野更來 村野菜々 諸瀬絵美
指導教員 大津山優葵 塚本都子

所属先：東京純心大学 看護学部 看護学科

キーワード：老老介護，不安，高齢者夫婦

1. 緒言

日本の介護保険制度における要介護又は要支援の認定を受けた人は年々増加している¹⁾。65歳以上の高齢者を介護する同居の家族の63.5%が、同じく65歳以上の高齢者であり²⁾、介護する側・される側ともに75歳以上の後期高齢者のケースも35.7%と過去最高の割合となっている³⁾。家族形態は、「夫婦のみの世帯」の者が最も多く、次いで「単独世帯」の者、「未婚の子との同居」の者、となっている⁴⁾。

実習で高齢者を受け持った際、退院後の自宅での生活の不安を耳にすることが多かった。その中でも先に挙げた調査より主な介護者の続柄が配偶者である場合が最も多いということから夫婦のみの世帯を対象とする。またこれにより、夫婦のみの世帯の場合、子と同居していないことで介護が必要になった際、家族介護を受けることが難しく、より不安が強くなることが推察される。そこで、老老介護での不安の内容や傾向を明らかにする目的で文献検索を行った。医学中央雑誌 Web でキーワード「老老介護」「不安」「夫婦」「高齢者」で原著論文に限定し検索したところ26件の文献が抽出された。不安について研究されている文献は17件、不安について具体的に述べられていない文献は9件であった。不安に関する内容を概観すると、「自分の体力の不安」は1件、「経済的な不安」は2件、「看取りへの不安」は3件、「1人での介護への不安」は3件、「将来の不安」は4件、「介護技術への不安」は4件であった。退院支援中の患者から

見た介護者である妻の体力面に関する不安が述べられていた。具体的な不安が述べられていない文献は5件、また不安が明らかになっていない文献は4件あった。以上の検索結果より、介護経験がない高齢者を対象にした研究やその不安の内容が明らかにされていないことが示唆された。

先行研究では、介護を経験している人の不安に対して言及されているが、介護が見込まれる人も不安を抱えていることが推察される。

そこで、将来介護を経験する可能性がある高齢者の不安を明らかにすることで、不安の軽減や知識獲得を目的とした交流会の開催や、退院時の情報提供など医療者の充実したサポート体制を整えることができると考える。

また、東京都の高齢化率が22.9%であるのに対し、八王子市は27.2%(令和2年9月)であることが報告されている⁵⁾。これより、八王子市では、高齢者に対する支援の需要が高いことから、今回の研究は八王子市の高齢者夫婦を対象とする。

2. 研究目的

現在介護をしていない高齢者夫婦の今後の介護に対する不安を検討し、どのような要因が将来の介護不安に影響を及ぼしているかを明らかにする。

3. 研究意義

研究によりこれから介護を経験する可能性がある高齢者の不安を明らかにすることで、不安の軽減や知識獲得を目的とした交流会の開催や、退院

時の情報提供など医療者の充実したサポート体制を整えることができる。

4. 本研究における用語の定義

不安: 現実に存在する、または仮想として想定される事柄や出来事に対して、心配や恐怖といった否定的な感情、また明確ではないが後ろ向きな感情を抱くことと定義した。

5. 研究方法

- 1) 研究デザイン 半構造化インタビュー
- 2) 研究期間: 倫理審査承認後から2023年12月
- 3) 対象者: 八王子市に在住している介護経験がない65歳以上の高齢者夫婦10組20人

4) 研究方法

(1) データ収集方法

東京純心大学から八王子市高齢者活動コーディネートセンターに所属している方に研究協力の依頼をする。

(2) インタビュー内容

- ・自分自身が要介護者になる不安の有無
- ・配偶者が要介護者になる不安の有無
- ・自分自身に介護が必要になった場合に困る点・不安な点
- ・介護が必要になった時のための準備はしているか
- ・介護を受けたい場所
- ・希望する在宅での介護形態
- ・介護保険制度、介護保険サービスの理解度
- ・地域の介護予防活動の理解度
- ・介護サービス充実の際の費用負担

(3) 分析方法

録音データは文字データ化し、その後意味のあるまとまりでコード化する。コード化した物からカテゴリー化を行う。

6. 倫理的配慮

研究協力者には、以下について口頭と文章で説明し、同意書を用いて同意を得る。インタビューは、プライバシーが守られるよう配慮し、承諾

が得られた場合のみICレコーダーを使用する。研究途中の同意撤回は可能であり、データは面接によって得られた情報音声データから逐語録まですべての取り扱いにおいて個人名は記号化し、個人を特定できる情報は、削除することを徹底する。

7. 引用・参考文献

- 1) 内閣府, 令和4年版高齢社会白書(全体版), https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2022/zenbun/pdf/1s2s_02.pdf (2023.9.27日参照)
- 2) 厚生労働省(2021), 国民生活基礎調査概況, <https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa21/dl/12.pdf> (2023.9.27日参照)
- 3) nippon.com(2023.7.12), 高齢者が高齢者を介護する時代: 老老介護, 初の6割超-厚労省調査, <https://www.nippon.com/ja/japan-data/h01733/> (2023.9.27日参照)
- 4) 厚生労働省(2021), 国民生活基礎調査概況, <https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa21/dl/12.pdf> (2023.9.27日参照)
- 5) 八王子市, 八王子市高齢者計画・第8期介護保険事業計画(2021~2023), https://www.city.hachioji.tokyo.jp/kurashi/welfare/ab005/ad96478/ad824973/p021222_d/fil/2-3-3-3.pdf (2023.9.27日参照)